

道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生



千葉大学教育学部教授

土田 雄一

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修



筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修

道徳授業充実のために ～児童の問題意識を生かす～

道徳授業を参観していて「面白い!」「よかった」と思える授業は「子どもたちの問題意識から発展していく授業」です。教師の敷いたレールに乗るのではなく、自分たちで考えを交流しながら新たなレール・道を創っていく授業です。それは次々と気づきや疑問が生まれて深まる授業になります。

では、どうしたらそのような児童主体の授業になるのでしょうか。今回の「道徳授業／誌上チェック&アドバイス」の見上先生は、導入で問題意識をもたせることに成功しています。そして、それに沿った授業を展開しようとチャレンジしています。その学習問題をみんなで考えるための「手立て」そして「ペアトーク」「グループ活動」「書く活動」等があります。教師の「一問一答型」にならない工夫が必要ですね。

また、今後の道徳授業充実のために「宿題の活用」を提案します。「事前の宿題」と「事後の宿題」。道徳授業の可能性を広げるものです。皆さんはどのように宿題を活用しますか。ぜひ実践の報告をお願いします。

今だからこそ“できる” “すべき”道徳教育とは?!

今、私たちはこれまで当たり前のように思い、享受してきた様々なことを、根底から覆され、見直しを迫られています。このような世界的な試練に、私たちは何を掘り所にして立ち向かっていけばよいのでしょうか。

ある意味、人としての尊厳が問われているような気がします。そういう時だからこそ、何ができるかを考え、自ら動くことのできる自分でありたいものです。

そして、そのような自分をつくるために大事な教育、それが道徳教育だと思います。道徳教育は、決して分かりきった周知の事実を覚え込む時間でも、一般常識に基づく行動様式に習熟する時間でもありません。もちろんそれも道徳教育の一部ではありますが、その大本に、深い人間愛があるはずです。

人としてよりよく生きようとする熱意、それは決して自己中心的なものではなく、広く長期的な視野に基づく尊厳ある生き方でしょう。「やさしさ」「努力」いろいろな価値基準がありますが、すべて人としてよりよく生きることをもとにして語られる必要があります。そうしないと空虚なものになってしまいます。

今だからこそできる、すべき道徳教育があるはずですよ。共にがんばりましょう。